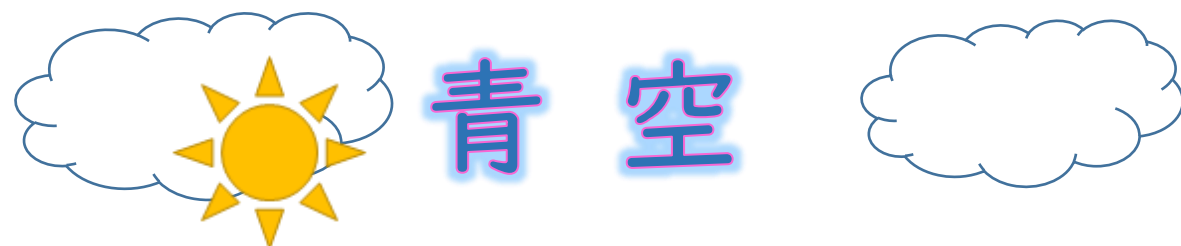


3学年 学年通信 NO.16



★ 修学旅行を振り返って文章にしてみましょう ★

修学旅行がスタートした前期の後半。気づけば、2 週間経ちました。現在に至るまで、定期考査、到達度テストも実施され、生徒は充実した日々を過ごしています。

今、廊下には、義務教育最後の宿泊行事だった『修学旅行の振り返りプリント』が掲示されています。今回は、その中から何人かの感想を紹介します。



【歴史を感じるひとこま】

教科書で見た歴史的建造物を実際に目にして、そのスケールの大きさと美しさに圧倒されました。現地ガイドの方の話を聞き、昔の人々の知恵や歴史の重みを肌で感じる経験となりました。また、お互いに協力し合うことで、班員の絆がより深まったと感じています。

今回の修学旅行では、京都・奈良の豆知識は細かい歴史を学ぶことができました。外が暑かったり、外国人観光客が多かったりするなど、目的地へ行くのにかなり苦労をしましたが、それなりに迫力があるものを見られたので、よかったと思います。



東大寺（大仏殿）



東京にいたら、なかなかできない江戸以前の歴史的なものをたくさん見ることができてとてもよい経験になりました。
※ **東大寺で穴をくぐり抜けられた**ので、1年間健康に過ごせるはずなのでよかったです。

※ 東大寺で穴をくぐり抜けられた とは…

廬舎那仏（大仏そのものの鼻ではなく、大仏の鼻の孔と同じ大きさと言われる柱の穴の通称です。奈良の東大寺大仏殿内で体験できる「柱くぐり」として知られています。

色々なことがありましたが、一番印象に残っているのは、京都・奈良の暑さです。東京がずっと感じるほどの暑さで、とにかく熱中症が心配でしたが、こまめな水分補給と休憩で、みんな大丈夫でした。関西弁を聞いたときは感動しましたが、標準語の方が安心感がありました。とても楽しかったです。

修学旅行では、私でも知っているくらい有名な寺社仏閣を訪れることができた。東大寺に行った際には、とてつもなく大きい大仏を拝むことができ、目が合った時は、一瞬動くことができないくらいだった。また、大仏の鼻の穴の中もとおり抜けることができ、大仏の大きさを視覚以外から感じるとともに無病息災を願った。

今回の京都・奈良への修学旅行では、歴史に触れ、学びを深められた半面、集団生活をするものの難しさを感じました。あ・じ・みを守ることは当たり前のことだけれど、みんなで生活しているので、ずっと気を張ったままで大変だったし、難しかったです。

修学旅行を振り返って、印象に残ったことは、竜安寺は美しく本当に水が流れているように見える庭園は感激だった。だから、この静かな庭園のようにこれからの学校生活では、はしゃぎすぎずにこれからの受験勉強に生かしたいと思う。

修学旅行の3日間のためにたくさん準備をしてけれど、実際の3日間は本当に一瞬だった。けれど、少ない3日間の中でもいろいろな思い出ができ、とても楽しむことができた。中学校生活最後の宿泊行事で終わってしまうのは、とても悲しかったが、深川第四中学校でよかったと思った。でも、学校は終わっていないので残り少ない日をしっかりと過ごしていきたい。

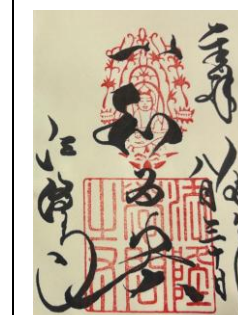


法隆寺



新しいものにたくさん触れることができました。行事にも柔軟に対応できるように心がけて取組ました。そして、班のメンバーやクラスメイト、友達と協力することのありがたみや大切さを強く実感しました。その他にも、大人の援助のありがたさがとてもわかりました。よい学びになりました。

中学生最後の宿泊行事で、不安だった部分もたくさんありましたが、みんなと協力して京都・奈良の歴史や魅力を感じることができました。実際に見学するからこそわかるものがあると感じました。今回の修学旅行では反省もたくさん出たので、その経験を生かして今後の学校生活でよりよくすごくために、成長していきたいと思いました。



★法隆寺では、今後の学習のため、正岡子規の【柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺】の石碑の拓本と、【十七条の憲法】の御朱印（神社仏閣に参拝した証としていただく『参拝記念の印』をいただきました。